

テイアの活動も評価されますが、少なくとも一人は専門的知識をもった学芸員の方の配置が必要でありましょう。

さらに収蔵品のデータベース化も必要であります。古いものは時とともに変質し、損傷の可能性もあります。貴重な資料は画像データベース化も必要です。これらはインターネットなどのネットワークを通して興味ある方々に供覧されるとよいと思います。また時々テーマを決めて資料展示を行ない、学内外に現物を通して医学に対するきちんとした歴史観を培ってもらうのも大切であると思います。このように人的、物理的な協力を得るためには、史料の歴史的意義をことあるごとに訴えて、キャンパス内の医学的資産についての理解を求めることも大切と考えます。

30

吉元 昭 治

以下簡条に愚考を申しておきます。

一、膨大のものになると思いますが、書籍、資料、収蔵品などを何処に、誰れか、どのように収集・保管するかが問題となりましょう。日本・中国・西欧、古代・中世・近

世・現在、あるいはジャンル別に責任者を決めて音頭をとっていただきたいと存じます。資金はどうするか大変な大仕事です。

二、集めても利用されなくてはなりません。コンピュータ処理、インターネットなどの手段も重要となります。

三、集められたものは、いわゆる「書齋科学」に陥り易い面もあります。広くもつと視野を拡げて、次のようにも提案します。

① 単に医史料だけでなく、学際的な交流、例えば科学史、文学、芸術、宗教などとの交流、単に医史だけで独立していると考えないで、他の分野から逆に医史学を見るときという態度が重要です。

② フィールドに出るの医史料の採取、古代の事項に関するものでは考古学にも係りましょう。書齋に引きこもつていないでフィールドに出てみましょう。そして生きた医史学を構築して、祖先が私達に残してくれたメッセージをキヤッチしていくことも大事な作業と存じます。例えば、医史学に関与する現地に立つて、そのの空気を吸ってみることでです。その山川草木は、たとえ都市化、現代化していても、大まかな姿は変わらないはずですし、祖先も同じ視野で眺めていたことは間違いありません。